



一般社団法人
うるわしの桜井をつくる会
〒633-0091 奈良県桜井市
桜井1259エルトさくら内
TEL&FAX:0744-47-3981
URL: <http://lets.some.jp>
E-mail: lets@some.jp

平成24年9月

うるわし通信

参加することに意義がある

オリンピックも終わりました。メダルの数をいう人もありますが、わたしは創始者クーベルタンの言葉「参加することに意義がある」に感銘を受けてきました。

誰でもわかることですが、10人走って10人一等になる筈はないのです。それでも順位にこだわる思想はありつづき、確かに一位を目標とするところに進歩があるのでしようが、それでも「参加することに意義がある」という言葉に値打があると思います。

スポーツに例えるならば人生はマラソン競技に近いでしょう。途中、栄養ドリンクを飲みながら完走することです。

人生はマラソン競技よりも、ずっと複雑ですが、完走を目指して頂きたい。特に3万人以上と伝えられる年間の自殺者、及びその予備員には強く要望したいものです。

さて、市民運動は人生の一端であって、決して一般的人生か

ら逸れるものではありません。

以前、「うるわしの桜井をつくる会」に入会をお願いしたところ、「わたしは一市民ですから」辞退するといわれました。わたしはそれだからこそ、市民運動に参加して下さいといいました。

人間には誰にも、自由・平等・平和(安全)を求める権利があります。例えば選挙で第一党になる。或るは首長になる。とすれば、その人やその人を擁する側は勝者となりますが、自由・平等・平和(安

全)は彼らの恣意によって操られます。真にそれを欲求するのは弱者の側です。だから権力の無い弱者の側に正義は近づいて来るのです。

権力を持たない市民の方に発言の正当性が近づいて来るのです。勿論、すぐに成果が上がることはないでしょう。何しろ、わたしたちは一市民であり、一平凡人ですから。

けれども、声をあげること。参加することにより、わたしたち自身も進歩し、そのことによりやがて、成果を得るでしょう。



ついにブランド化に成功「奈乃葉菜油」 NPO法人 さくらい菜の花プロジェクト

できたばかりの「奈乃葉菜油」1本を前に事務局長として、ここまで頑張ってきた西田 椒子(ひでこ)さんにお話をうかがいました。
(インタビュー 浅川肇)

浅川 容器のデザインも仲々のものですね。NPO法人としての立ち上げに西田さんが腕を振るわれたと聞いています。プロジェクトの現在の活動状況からお話し頂けますか？

西田 平成21年にNPOを立ち上げました。試行錯誤を重ねて今日に至りましたが、この活動を拡め持続するには、県内で活動している「菜の花プロジェクト」との横のつながりが必要と思い、葛城・大和郡山・御所・奈良（NPO法人宙塾）などの各団体と昨年より話し合いを進めた結果、なたね油の奈良県ブランド「奈乃葉菜油」が出来上がりました。

浅川 菜の花に注目された理由は？

西田 ナタネは循環型社会を作るのに一番良いモデルなのです。休耕田で生産→搾油・販売→廃油回収→BDF燃料に精製し、休耕田の耕作と地産地消を実践する身近な作物で、比較的栽培しやすく、3月末から4月初旬にかけて一面黄色の花を咲かせますから、観光資源にもなります。また、私たちが栽培している「ナナシキブ」という品種は無エルシンサンで、ビタミン類も豊富に含まれた健康自然食品です。そのうえ、ナタネはCO₂を吸収しやすく、土地を浄化する力があり、原発災害の地チェルノブイリで土壌改善に使われているそうです。

浅川 市内の主な栽培地は？

西田 高家、生田、外山の他、狛・岩坂は村をあげて取り組んでいます。身近の休耕田を活用し栽培して下さる方を募集しています。反当り2万円の国の戸別所得補償制度を活用し、収穫したナタネは1キロ150円で、菜の花プロジェクトが買い取ります。

一番搾りのブランド品「奈乃葉菜油」を前に、今日までの苦心と、商品化成功の喜びを隠せない西田さん。できあがれば、できあがったことで多忙となり対話中も電話が鳴り止みません。

この压榨一番搾りの「奈乃葉菜油」は無添加自然食品の逸品で、天ぷら油にのみ使用するのとは少々勿体ないくらいで、パンにつけて食べる、ドレッシングにする、などレシピも作る予定です。会員は無料でもらえますが、一般には1本283g、1000円。桜井では駅北口の「卑弥呼の里」でお買い求め頂けます。このほか注文は電話0744-46-3400(ひがし)でも受付けます。会員になるには年3000円で、会員は菜の花畑の草とりが義務です。



なのはなあぶら
奈乃葉菜油

バングラデシュの寺院訪問記

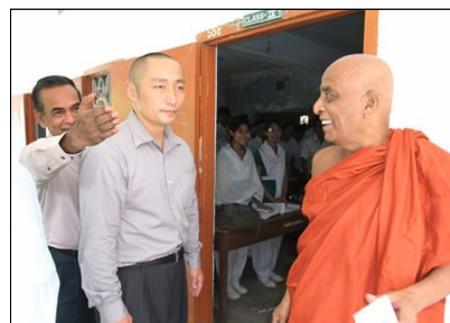
平等寺副住職 丸子 孝仁

バングラデシュはイスラム教の国ですが、私が僧侶ということでダッカにある寺院に案内していただくことになりました。お寺は、境内中央には大きな池があり、その周囲を7メートルはある金色の釈迦如来像と建物が取り囲む形になっていました。しばらくしてから、赤いお袈裟を身にまとった老僧が出てこられました。こちらのお寺のご住職、Ven. Suddhananda Mahathero師でした。まず、大きな仏舎利塔が奉られている部屋に通していただきましたので燭に火を灯して焼香して三拝いたしました。それから、そこのお寺の再建に尽力された日本人の早川 崇氏(元衆議院議員・元日本バングラデシュ協会会長)のご位牌の前で読経しました。その後、応接間にてご名刺をいただいて思わず目を疑いました。そこのお寺の名前が「ダーマラジカ」だったので。

今から30年ほど前、師匠が平等寺再興の勸進托鉢行に出て郡山に托鉢に行きました時に世界の平和運動に取り組みされた、藤井日達上人と交流の深かった広上搭貫上人に出会い、なんと広上上人から平等寺中興開山の慶円上人の伝記本を見せられたそうです。広上上人は、その伝記本を「あなたのお寺のものだから」と師匠に渡されたそうです。

それから師匠と広上上人の交流は続きまして、本堂の落慶法要にも来ていただきました。ある日、広上上人が病に倒れたことを聞いて三重県のお寺までお見舞いに行ったそうです。その時に、「これはバングラデシュのダーマラジカ伝来の仏舎利です。あなたのお寺に奉ってください」と言って仏舎利を授かりました。それが、現在、平等寺の二重の塔の中心におまつりしている仏舎利なのです。私は早速、師匠に国際電話で聞きますと、まさに、その「ダーマラジカ」だったので。私の驚いた様子に、ご住職のマハセロ師も驚かれ、私の携帯を取り師匠とベンガル語で話していました。師匠も一生懸命に話し、途中で通訳の方に間に入っていただきましたが、おそらく二人には言葉はほとんど通じていなくても、心が通じ合ったのではないのでしょうか。

ご住職に手をとられ、お寺の境内にある学校にご案内いただきました。大きな学校でした。日本の学校からみれば狭い教室でしたが、どの教室にも、たくさん子ども達がいて、目を輝かせながら一生懸命に勉強していました。私が廊下から合掌して挨拶しますと、子ども達も皆一斉に立ち上がって合掌して応えてくれました。「仏教信仰があつい学校だなあ」と感心しながら教室をまわっていきますと、ご住職が突然、私の手を引っ張って教室の中に入っていかれ、ある女の子の背中をたたきながら、「この子は私の娘です」と話されました。私は、どういうことなのか通訳の方に聞いてみますと、「この学校の子ども達は親を亡くした孤児達なのです。ここにいる子ども達は、この学校の隣の宿舎で寝泊まりし、3食のご飯を食べて教育を受けています。それでご住職は私の娘といっているのです」と聞かされ驚きました。さらに、ご住職が、「ここにいる600人の子ども達は、皆、私の子ども達です」と話されて、もう一度その子ども達の輝く目を見た時には感動のあまり言葉もありませんでした。バングラデシュではイスラム教の教会に於いても、貧しくて食べるものさえない人達の為に食べ物を振舞っていました。かけがえのない出会いにたくさんのお話を学ばせていただきました。ご支援くださいました皆様方に深く感謝申し上げます。



筆者とマハセロ師(写真右)

イベント案内

談山セッション～ 日本人とは、魂の源流～



2012年10月28日（日）開場/13:00

第1部 14:00～15:45 トーク&ライブ

第2部 16:00～17:15 交流宴会

参加料/第1部3,000円 : 第1・2部共通7,000円

問合せ/談山神社 桜井市多武峰319

TEL0744-49-0001 FAX0744-49-0236

トークゲスト 上野 誠

ライブパフォーマンス 石井 満隆

YAS-KAZ

映画監督 原 将人

事務局だより

- 9月の常任理事会は9月15日（土）午後1時30分よりエルト桜井第6研修室にて開きます。
- 教育部会：10月中に教育問題についてのディスカッションを計画しています。

特命オンブズマン

原発野望の粉碎

原発の使用済燃料は、30万年間死の放射能を放ち続ける。アメリカでは、地下数百メートルに30万年間コンクリート詰めにしようと考えた。だがその案も否定された由、当然であるコンクリートは100年で劣化し始める。ドラム缶もまた同じ。30万年の地中変化を誰が確認できるのか。人類の科学にとってプルトニウムの封じ込めは、今や不可能である。

福島原発現場では、被爆線量を低く見せようと、線量計に鉛のカバーをかぶせ、あまつさえ線量計をつけずに作業員を働かせている。

命を無視する「被爆隠し」の実態である。その数3000人に及ぶと言う。

文科省の「放射能副読本」は、原発作業員でも年間50ミリシーベルト以内とされている被爆線量に対し、100ミリシーベルトでも、被爆と病気との実態は明らかでないかの如く、放射能を甘く見せかけている。許し難い放射能軽視であり、原発安全神話復活の陰謀である。

原発稼働を許す限り人類は常に滅亡の危機と、未来との断絶に直面する。

-芝 房治-

会員募集中 どなたでも(市外の方も)入会できます。くわしくは事務局まで。
年会費 個人 ¥2,000 法人 ¥20,000

編集後記 暑かった夏も終わりに近づいています。関西電力自身のデータによっても、原発を稼働させなくても今夏の電力不足は起らななかったのです。節電の効果も大きかったと思います。節電は大切です。消費文化に馴らされてきたことを反省しました。(あさ)

うるわし通信編集責任者
〒633-0091
桜井市桜井142-5-203
浅川 肇
TEL090-1961-6345